



理念

私達は、高い志をもち、時代の要請に基づき先駆的に社会福祉の充実を図るため、利他の精神をもって活力ある経営を行い、社会福祉法人としての責務を果たし、社会に貢献してまいります。



ハスネファームで大根の大収穫に喜ぶ利用者さん

特集

農福連携の取り組み 蓮根福祉園

もくじ

理事長挨拶	1	大泉障がい者支援ホーム リニューアルオープン ..	6
東援ニュース	2	民生委員向け介護教室・永年勤続表彰式 ..	7
委員会活動報告 働きやすい職場づくり委員会 ..	3	支援マテリアル紹介	8
特集：農福連携の取り組み 蓮根福祉園 ..	4・5	東援歳時記	8



すべての人々に喜ばれる福祉サービスを

理事長 中村 明彦

新型コロナウイルスは感染発生から3年目に入っても変異を繰り返しながら、依然猛威を振るっています。

これまでワクチン接種をはじめ、政府においては様々な対策を取ってこられました。感染状況を十分見極めた上で、抜本的な政策転換を含めて、より効果的な対策を取っていただきたいと思っております。

当法人の各施設においては、引き続き感染予防の取り組みを継続しておりますが、利用者様、そして職員が感染することなく、平常通り運営していけるように願っております。

さて、今年は東京援護協会創立70周年にあたります。

創立者山口榮次郎氏の理念に従い「利他の精神」をもって社会福祉事業に邁進してきた結果、現在では18施設、約800名の職員を擁する国内有数の社会福祉法人に発展してまいりました。

職員の皆さんには「他人の喜びは自分の喜び」と感じつつ、奉仕の精神を持ってさらに業務に精励していただくようお願いいたします。

そして、これからも東京援護協会は福祉の基本を守りながら、すべての人々に喜ばれる様、より一層福祉サービスに努めてまいります。

NEWS 1

グループホームまあるが7月1日OPENしました!

全員集合!「オープニングセレモニーを開催しました。」

法人初となる念願の「グループホームまある」が7/1にオープンしました。

ご利用の申し込み者には、予想を上回る問い合わせがありました。家庭訪問と、判定会議を終え入所者6人が決定しました。「親子育て・地域育て」の取り組みが代々続けられていて「地域で自立したい!させたい!」という熱い想いが溢れています。行く先々で、やさしさに触れ、ずっと待ち望んでいた声を聞き、「人情の町」を体感しています。

未来を楽しみに、一步踏み出そうとしている方々の力となり、「アットホームで温かなグループホームを作る」これが担当職員の原点です。

皆が「住み続けたい」と思えるグループホームを目指していきます。6/23, 24には内覧会を開催しました。97人の参加で、近隣の方々や関係機関、台東区の服部区長も来ていただきました。

内覧会に来ていただいた方々には感謝の気持ちと共に、お礼に法人の障害者就労施設で作っている自慢のクッキーを手渡しました。



NEWS 2

東京高次脳機能障害者支援ホームが建て替えのため、仮設施設に移転します



HiBDy.Tokyo

東京高次脳機能障害者支援ホーム (HiBDy.Tokyo) は、施設開設から50年以上が経過したことから、老朽化への対応や施設機能の充実を図るため、この度施設の建替えを行うことになりました。新しい施設は現施設を取り壊した後に建設するため、一旦仮設施設に移転し、施設が完成してから戻ってくることをしています。

仮設施設は、清瀬市にある東京都の「社会福祉施設建替え促進事業」の施設で、今年の8月末に引っ越し、9月から令和6年12月までの約2か年半、清瀬で事業を継続していくことになります。現在、利用者の皆様が安心して仮設施設に移って頂けるよう職員一同鋭意準備を進めています。



正面玄関



エントランス



居室

働きやすい職場づくり委員会

今回は働きやすい職場づくり委員会の委員長の橋本次長、副委員長の相良次長にお話を伺いました。

1. 委員会では今までどのような取り組みをしてきましたか。

法人65周年記念に文化祭を開催し、コロナ禍前には、毎年恒例のボウリング大会を開催してきました。又、現在では「Tokyo働きやすい福祉の職場宣言」、「くるみんマーク」取得に向けた事業計画の作成、そして大きな案件である、人材確保に向けた検討・提案などを進めています。



2. コロナ禍に入り、どのような取り組みをしてきましたか。

昨年度はコロナ禍でどんなことが可能かを委員会で模索した1年でした。その第1弾としてリモートによる職員交流会を実施しました。各施設の主任を対象に初回は盛り上がりました。現在第2弾も検討しています。



3. 法人や各施設をより良くしていくためには今後どのようなことが必要と考えていますか。

委員会設置に先立つプロジェクトチーム発足の頃から、様々な提案事項や検討・課題があり、その中でも人材確保は大きな課題の一つでした。ここ2、3年は人材確保（中途及び新卒採用）について法人全体としてできることは何かを改めて検討し提案してきました。そして、昨年度から法人執行部と共に新卒者の獲得を本格的に行っていくことになり、今年の4月からは求人サイトやリモートによる面接を活用して、全国の新卒者への採用活動を始めました。

また、法人職員の平均年齢が高くなってきていることから（常勤職員46歳）、採用だけでなく、定着や育成も大きな課題です。「育成システム」「給与体系」「人事異動」等の制度の見直しや法人の魅力を再定義するなど、当委員会だけでは解決できない課題もあります。そのため、今後法人執行部をはじめ、他の委員会とも連携して取り組んでいく必要があると思います。



4. 働きやすい職場づくり委員会が目指す目標とは。

法人の歴史を守り、はぐくみながら、地域社会はもとより、若い世代にも求められる法人であり続けられるよう、法人職員にとって働きやすい職場環境を提供・提案し、法人に対する帰属意識を高めてもらう働きかけを行っています。そして、常に改善・向上していく取り組みを今後も続けていきます。

蓮根福祉園では、近隣の農園のハスネファームさんと連携し、利用者の方が定期的に農作業の手伝いを行っています。草むしりや棚の設置、収穫、野菜の皮むきなど関わる仕事が少しずつ増えてきています。皆さんいきいきと作業に取り組んでいます。

収穫した野菜は、農園での販売用だけでなく、

福祉園で乾燥させて野菜パウダーにして、ハスネファームさんが運営するレストランで料理に使ったり、福祉園のオリジナルクッキーとして販売したりしています。

今後もハスネファームさんとの連携を続けて利用者の方が関われる仕事を増やしていきたいと考えています。

棚の設置作業、
みんなで力を合わせて
頑張りました!



さつまいも収穫!
手で土を掘るのが
楽しいです!!



大根収穫!
たくさん
取れました!



しょうが栽培の為に、
雑草取りをしています。



じゃがいも収穫も
暑い中、
頑張りました!!



販売用の野菜の
袋詰め作業も
ひとつひとつ丁寧に。



います!!

Lotus no ie
蓮根福祉園



ハスネファーム・農場長 富永さんインタビュー!!



農場長
富永さん

Q1. 農園を始めたきっかけは？

義理の母の持っていた農園を一人で維持するのが難しくなり、当時勤めていた会社を辞めて、引き継ぐことになりました。実際に始めてみると、さまざまな人との交流が広がり、新たなアイデアが生まれるなど、面白みも感じています。

Q2. 蓮根福祉園や利用者との関わりについて

福祉園から徒歩で来られることもあり、良い距離間で連携が取れているのではないのでしょうか。今後も利用者さんにさらに良いお仕事を提供出来ればと思っています。

Q3. 今後の予定など

生ごみを捨てずに、発酵してたい肥にする取り組みをしています。この取り組みを地域で、もっと進めていきたいと考えています。



そら豆の皮むきは、
中の白い部分まで
ひとつひとつ丁寧に
むいていきます。



皮むき後のそら豆は、乾燥させてから
ミキサーに入れてパウダーにします。

ハスネファームの
野菜を使った
オリジナルクッキー!!



雑誌PENに掲載されました!
ハスネファームの取り組みとともに、蓮根
福祉園のことも、お話しして下さっています。



リニューアルオープン 大泉障害者支援ホーム 新しい生活、新しい活動が始まりました!

リニューアル工事を行っていた大泉障害者支援ホームは、3月30日に無事完成し、4月27日には施設の新しい門出を祝う竣工式が執り行われました。

新しい施設では、2人部屋から個室になるなど入所者の生活環境も変わり、通所部門でもレタスの水耕栽培と販売を始めました。また、新たに設けた地域交流室「Café vivo tree」もお客様から好評を得ています。今号では、リニューアルオープン施設の利用者、お客様の声をお届けします。

入所の利用者さんの声

利用者さん：「一人部屋になって快適！今までは二人部屋だったので、相手に迷惑がかからないようにしていたけれど、気兼ねなく好きなことができるよ」

利用者さん：「一人部屋になってうれしいけど、ちょっと寂しいかな」

利用者さん：「外のウッドデッキで日光浴できるのがうれしい」

利用者さん：「広い活動室でお仕事ができるのがうれしい」

利用者さん：「新しくできた大泉ガーデンを歩くのが楽しいんだ！」



Café vivo tree利用のお客様の声や様子

- 「生野菜は好きでないけど、ここのレタスは美味しかったから食べられるのよ。お友達にも宣伝しているの」
- 「隣の公園に来ていた親子は、ドリンクとパンを買って、友達にも紹介したいので、ということで写真を撮っていかれました」



オープンして間もないですが、すでに常連になって散歩やペット同伴で寄ってくださる方など、近隣の方々などの口コミで利用者が増えています。

毎週水曜日、金曜日の午後オープンしていますので、お近くにいらした際には、ぜひ寄ってください。お待ちしております!

法人各施設では、コロナ禍にあっても工夫しながら地域の皆様との交流を継続しています。また、法人の大切な財産である職員には節目節目で法人から感謝の意を表しています。今号では、東が丘福祉工房の地域交流の取り組みと、職員の永年勤続表彰式をご紹介します。

●民生委員向け介護教室

東が丘福祉工房では、地域貢献活動として小学生や地域の方々に向けた介護教室などを実施しています。今回は、地域の民生委員の方々に向けた「車いす体験」を行いました。当日は晴れやかな天気のもと、施設の広場で車いすの操作説明の後、広場から近くの東根公園までを体験していただきました。ルート上は、芝生・坂・狭い道の難所が多くありましたが、民生委員の皆さんは、とても元気に丁寧に車いすを押していました。参加した皆さんからは「上り坂や芝生を押す時は大変だったが、とても良い経験ができた」「自分が実際に車いすに乗ってみると、少しの段差で揺れた。車いすを押す時はゆっくり進むように心掛けたい」など体験ならではの感想をいただきました。



●永年勤続表彰式

東京援護協会では法人の創立記念日である5月17日に毎年「永年勤続表彰式」を行っています。法人にとって、かけがえのない財産である職員への感謝の気持ちを込めた表彰式です。今年も勤続30年が1人、20年が7人、10年が17人のあわせて25人が表彰されました。法人理念の「利他の精神」と向き合い、利用者様やご家族、関係する皆様の笑顔に心を動かされ、永年に渡って福祉の仕事に誇りを持って職務に邁進してきた25人です。理事長から法人の発展のために中心的な役割を担っている職員へ心から感謝の意を表するとともに、これからの一層の活躍を期待して「表彰状」と「お祝い金」が渡されました。東京援護協会では、引き続き人材定着の取り組みを進めてまいります。



支援マテリアル紹介 介護リフト 関町福祉園

関町福祉園では、体の大きな利用者の移乗支援は主に男性職員が担当していました。1日に複数回移乗が必要のため、腰痛を発症する職員も多く、施設の大きな悩みでした。

そこで、検討を重ねた結果、移動式の介護リフトを導入しました。

そして、このリフトを使うようになって2年、今では女性職員だけでも移乗ができるようになりました。

職員の腰痛の頻度も減少し、日々の支援にも余裕がでてきたと感じています。

今では、園の活動に欠かせない支援の「仲間」になっています。

「リフトを使い始めてから腰痛になることがなくなった!」



「女性でも扱えて良い! 使いやすい!!」



これが介護リフト!



東援歳時記

色とりどりのパネルが園を明るくしています!

高島平福祉園

高島平福祉園の1階フロアを明るく賑やかな雰囲気にしようとはじめた試みが『パネル作成』です。利用者様の好きなアニメのキャラクターや四季折々の風景画等のパネルを生活支援係の利用者様と共に創作しています。主に点描画で制作していき、利用者様それぞれが筆をとり、協力して制作しました。

古くなって暗かったフロアから一転、色とりどりのパネルが園内の壁を明るくしています。利用者様も嬉しそうに作ったパネルを眺めて話題にされることが増えてきています。



編集後記

全国で最も短い梅雨明けとなり、猛暑が続いています。熱中症対策とコロナ対策を継続中ですが、皆様体調はいかがでしょう?

今年度の新たな広報委員会が活動を開始しました。引き続き法人の「いま」と「これから」を伝えられる

ように紙面づくりに取り組んで参ります。

コロナ禍で活動が制限される中でも、法人の取り組みや利用者の生活を支えるために、職員のイキイキとした活動や役立つ情報等をお伝えしていきたいと思ひます。



東援だより 第38号

発行日 令和4年8月26日

発行者 中村 明彦

社会福祉法人 東京援護協会

東京都台東区東上野3-18-11